

第1回地球温暖化対策実行計画検討部会 会議概要

- 1 日時 令和4年(2022年)8月8日(月)午後2時~3時40分
- 2 場所 函館市環境部4階大会議室
- 3 出席者 委員(6人)
佐藤不二子委員, 佐々木香委員, 須賀昌昭委員, 榎田健委員, 池田誠委員,
宮川真人委員
アドバイザー(2人)
服部博和アドバイザー, 久保田学アドバイザー
事務局(6人)
佐藤賢一(環境部次長), 田中修一(環境総務課課長),
佐藤弘康(同課主査), 福田誠(同課主査),
高島一輝(同課主事), 中村瀬奈(同課主事)
- 4 傍聴者 なし(随行者1人(渡島総合振興局保健環境部環境生活課))
- 5 発言要旨
 - (1) 開会
(事務局)
 - ・ 開催挨拶
 - ・ 名簿順に出席委員の紹介
 - ・ 事務局員の紹介
 - ・ 資料の確認
 - (2) 議事
 - ① 部会長の選出
(事務局)

環境総務課の田中でございます。本日は、部会長が選出されますまでの間、私の方で議事を進めさせていただきます。

それでは、部会長の選出についてですが、協議会規約第8条第3項では、部会員の互選により定めることとなっておりますが、ご異議がなければ、事務局からご提案いたしたいのですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局の案をお諮りいたします。

北海道地球温暖化防止活動推進員として温暖化防止の普及などの活動に取り組んでいる池田委員に部会長をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

異議なしのご発言がありましたので、部会長には池田委員が選出されました。

それでは、部会長は議長席の方へ移動をお願いします。

この後の進行につきましては、規定により、池田部会長に議長をお願いいたします。

池田部会長、よろしく願いいたします。

(池田部会長)

本日の会議では、いろいろな報告事項などたくさんあるが、時間も限られており、合理的に進めていきたいと思う。

本日の流れだが、次第通り、事務局から計画策定の趣旨等について説明をいただき、報告事項として基礎調査報告書、市民および事業者に対するアンケート調査について報告を受け、それらを踏まえた計画の骨子案について皆様からご意見をいただければと思う。委員の皆様の忌憚のないご意見をいただければと思う。終了予定時刻は、午後3時45分を予定している。皆様のご協力をお願いします。

それでは早速だが、議題に入りたいと思う。

② 計画策定の趣旨等について

事務局から「資料1 計画策定の趣旨等について」により説明

(池田部会長)

- ・ だいたい、事務局から説明があったが、質問や確認したい点があれば、よろしく願います。

(特になし)

③ 「新たな函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定のための基礎報告書」および「函館市の地球温暖化防止対策に関する市民および事業者アンケート調査報告書」について

事務局から「資料2 新たな函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定のための基礎調査報告書」および「資料3-1 函館市の地球温暖化防止対策に関する市民・事業所アンケート調査 調査結果の概要」により報告

(池田部会長)

- ・ だいたい、事務局から報告があったが、質問や確認したい点があれば、よろしく願います。

(特になし)

④ 「第2次函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」骨子案について

事務局から「資料4 第2次函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）骨子案」により説明

(池田部会長)

- ・ だいたい、事務局から骨子案について説明があったが、ここからは、章ごとに区切って皆様からご意見をお聞きしたいと思う。

まずは第1章1ページから2ページの「計画の背景と目的」だが、ここで何かご意見などあればよろしく願います。

(久保田アドバイザー)

- ・ 先ほどのアンケートについてだが、興味深く拝見させていただいた。

資料3-3の1について、クールビズや冷暖房の温度設定に関して、複数の方がネガティブな感想を回答しているが、要するに我慢の省エネという形で市民の方々は捉えているところがあると思う。しかし、事務局の説明の中にもあった市の削減目標である2030年度までに46%減だが、国でいえば家庭部門で約66%削減や、業務部門で約50%削減となっており、こうなってくると個人の努力や事業者の努力だけでは無理だというのが定説としてある。そうすると、個人の行動変容を出来ることからやっていくように働きかけていくということは重要ではあるが、それだけでは足りないという前提に立って、社会の構造変容みたいなものを省エネ型・再生可能エネルギーに合うよう変えていかなくてはならない。それが地域脱炭素ロードマップなどによる大きな方向付けとなっていると思う。そのようなことを、背景として触れておかれてはどうか。

同じことだが、自治体として、脱炭素や気候変動対策に取り組んでいく目的は何なのかということ、もう少し市民の利益に寄り添った形で書くことができるのではないだろうか。もちろん気候変動の影響を抑えていくことが重要であることは間違いないが、例えば市民アンケートで公共交通に関する批評を書かれている方が多い。市としては気候変動対策ではなくて交通整備政策として実施していると思うが、気候変動対策と市民の生活に関わる部分は、重なっているところが非常に多い。これをやることは、我慢や負担が増えるということだけではなくて、

市民の生活が良くなる、あるいは放っておくと公共交通はどんどん減っていく方向にしかならないが、それを維持するということが合わせて出来るということもある。要するに、住民利益や地域の利益のためにこれをやるという部分を、目的としてはっきりと書いてみてはどうか。

また、環境省のソフトで試算できるが、函館市では年間約600億円の金額が、光熱費として域外に流失している。これを減らせば地域の市民や事業者の負担がなくなることから、経済的な利益があると思われる。個人がそれをどれだけ実感できるかという部分よりも、地域全体として考えたときに利益は大きいため、そういう状態をメッセージとして伝えるうえでも、気候変動対策の政策という意味合いだけではなく、市民の生活や経済、福祉の問題などを合わせて解決していくことができるという、統合的な解決の視点を目的の部分に明確に記載してはどうか。

現在、ロシアが戦争を起こして、エネルギーが世界的に不足しているが、再生可能エネルギーを域内で作っていれば、このようなエネルギー不足の影響を受けない。このような問題に取り組むメリットが、いろんな面であるということを持ち出していくべきである。

(池田部会長)

- ・ 他になにかあるか。
(特になし)
- ・ では、今の意見を事務局のほうで対応し、次の会議にてお願いしたいと思う。
- ・ 次に、3ページの計画の基本的事項についてだが、ご意見等はあるか。
(特になし)
- ・ 次に、4～6ページの第3章 函館市の概況と地球温暖化対策のロードマップについてだが、ご意見等はあるか。
(特になし)
- ・ 次に、7～12ページの第4章 地球温暖化対策の取組についてだが、ご意見等はあるか。

(須賀委員)

- ・ 資料2の、調査報告書について、都市ガス資源の現状認識についてだが、8ページ目にガスとあり、函館市は人口が落ちていて、我々のお客様件数も横ばいや微減になっているが、特に家庭用の販売量が非常に伸びを見せている。ガスの暖房に置き換わっているのに加えて、ガスのマイホーム発電があり、一家に一台発電機が設置されるというのが、新築戸建の3件に1件ほどある。本社は札幌の会社だが、札幌の率で言うと5件に1件であり、函館市は非常に先進的な地域であると、本社からは考えられている。決して函館市のガス料金が安いということはないが、地域としてマイホーム発電率が非常に高い。先ほどアンケート調査の概要のほうで、あまり市民は関心がないというような受け止めであったが、特にミレニウム世代や、Z世代など、これから家を購入する世代については環境意識が高いというように感じる。それを踏まえて取組を見ていくと、基本方針1、2、特に3で、このあたりについて、我々は2030年度の経営計画があるが、省エネ・再エネを徹底してやるという基本計画を立てているため、このあたりについて賛成である。ただ、エネルギー需給者として、天然ガスというものは二酸化炭素を排出するが、石炭よりも低いので、それを高効率の天然ガスシステムに変えていくということが、基本方針1の施策の柱2であったり、また、マイホーム発電を導入していくというのが、基本方針2の施策の柱2であったり、あと基本方針3も、例えば西部地区の再整備事業に参画するという、供給者としての取組であったり、施策の柱4のブルーカーボン、函館の地域資源、水産資源の活用とい

うのも、供給者としてやっていきたい。

こういったところを上手くエネルギー会社を巻き込み、まちづくりにおいて再エネの資源の活用に協力していきたいという社の意見がある。そのため、基本方針1～3は全て重点として扱ってほしい。

(池田部会長)

- ・ 次に、13～15ページの第5章 気候変動の影響への適応策についてだが、ご意見等はあるか。
(特になし)
- ・ 最後に、16ページの第6章 計画の推進体制・進行管理についてだが、ご意見等はあるか。

(久保田アドバイザー)

- ・ 第4章の基本方針の1～3までに書いていることは、全部やらないと目標は達成できないと思う。そうはいつでも、市民や事業者が取り組んでいくかと言うと、アンケートの結果にあるように、簡単には投資できないとか、回収が簡単にはできないと事業者は考えている。

前提の部分で触れたほうが良いが、2030年で終わる話ではなく、2050年がゼロカーボンの目標となっており、2050年以降もずっと続けていかなければならない話である。現在、燃料の世界的な流れが悪くなっている石炭火力の増加などは、今後もあるかもしれないが、止まることはないと思う。そうすると、長期投資をしないといけないと競争力が落ちてしまう。企業にとってだけでなく、地域全体としてもそういうことになる。すぐにパフォーマンスの高い対策ができるわけではないし、成果が劇的に出るわけでもないが、少なくともやり続ける仕組みみたいなものが一番重要であると思う。そうすると、第6章の進行管理の部分で、やり続ける仕組みについて記載があると良い。このような協議会の場が期待されると思うが、市民や事業者が関心を持ち続けられるような、やりとりが出来る場というものを、きちんと用意することが重要である。

アンケート調査にも出てきているが、市がどんなことをしているのかわからないという意見がたくさん出ており、市と市民がよりコミュニケーションをとっていくことが必要である。そのことについても第6章や、基本方針の5のようところで、施策として重視していくと良い。

また、市民と事業者のアンケート調査について、市民のアンケート調査では、今後の対策でごみの削減など比較的定着していて取り組みやすいものを挙げているが、事業者と違ってエネルギーの対策の優先度が低い。地球温暖化対策の話は、はっきり言ってエネルギーの話であり、もちろんリサイクルやごみの話もその中の一つであり、重要なところだが、これはエネルギーの話であり、そこに正面から向き合っていかなければならないということを、時間がかかるかもしれないが、しっかりとコミュニケーションを重点として位置づけていくと良いと思う。

(池田部会長)

- ・ 全体を通して、ご意見等はあるか。

(佐々木委員)

- ・ いろいろな函館市の会議に出席し、毎回思うのが、この計画に出てきている内容についても、例えば公共交通協議会で公共交通を使いましょうということを行っているが、日ごろの車の運転状況を見ると、平日の昼間に高齢の方が買い物や通院などに車を使っているところをよく見る。バスや電車の本数が減少し、コンパクト化が進んでいるなかで、なかなか出かけることが難しくなっている高齢者の方はどうするのかや、温暖化のことを考えると、函館の夜景を観光の目玉にしているのにも関わらず、年々函館の夜景が暗くなってきていることはどうするの

かや、それと関連して、夜の街が節電のためにだんだん暗くなってきているが、防犯対策はどうするのかなど、複数の問題が関わっていることが、いろいろな会議に参加する度に話しているが、函館市の中で横の連携が上手くいっていないことを、強く感じている。今日の説明の中でも、例えば火力の高効率化を目指していくとあるが、果たして本当にそれが可能なのかや、細かな部分で気になる点がたくさんある。

(服部アドバイザー)

- ・ 2017年、18年に札幌で地球温暖化の仕事をしており、その経験から、一般の方々が気になるのは、温暖化の話や、気温が上がってきているという話をしたときに、頭ではわかっているが、目先の話ではなく、将来の話であるため、なかなか行動に移らない。温暖化対策は、今後10年、20年、30年と続いていく話だが、そこを市民や事業者にインプットしてもらって、どう行動していったらいいか、そのアプローチが重要だと思う。

また、第5章で、今後の予測資料を載せていくということになっているが、RCP8.5の予測資料で第5章の資料を作っていくということで良いか。

(事務局)

- ・ RCP8.5の予測資料を使用していく。

(服部アドバイザー)

- ・ RCP2.6の資料もあるため、必要であれば言ってほしい。

(池田部会長)

- ・ 他になにかあるか。
(特になし)
- ・ いろいろな地域に行くと、温暖化の話や、SDGsの話が小学生にすることがあるが、大人以上に意識が高く、節電などエネルギーを節約する意識が非常に高く、彼らから学ぶことも多い。大人の我々が取り組むべきことだと思うし、今日は時間の関係で説明が出来なかったと思うが、アンケート調査にかなり厳しい意見もたくさん出ているため、こういったものも、きちんと反映させて計画づくりが出来れば良いと思う。もちろん我々集まっているメンバーも、みなさんに知ってもらいたいと思っている。

⑤ その他

(池田部会長)

- ・ 他になにかあるか。
(特になし)
- ・ 事務局のほうからなにかあるか。

(事務局)

- ・ 本日いただいたご意見を参考に素案策定の作業を進め、改めて協議の場を設け、ご議論いただきたいと思います。なお、本日も議論いただいた内容や配布資料につきましては、協議中の事項となりますので、資料の取り扱いにご配慮くださいますよう、お願いいたします。

次回の検討部会については、できるだけ多くの方が出席できるように、日程調整のうえ、ご案内いたしますので、どうぞよろしくご願ひいたします。

(池田部会長)

- ・ 今日日程確認表をいただいておりますが、これは2回目なのだが、一番最初の計画策定スケジュールでいくと、8月に3回程度となっているが、これは3回やる方向で間違いはないか。

(事務局)

- ・ 今のところ3回程度と考えております。
- (池田部会長)
- ・ タイトなスケジュールになるが、引き続き皆様におかれましてはよろしく願
いする。
これで予定した議事をすべて終了したので、進行を事務局にお返しする。

(3) 閉会